

藤波こども園

令和5年度 園長だより No.6

令和5年11月7日

文責 澤 悦弘



旧 藤波幼稚園



現 藤波こども園

元気はつらつ “秋”を満喫



暑さ対策に追われた夏が終わり、さわやかな秋を感じる気候となりました。子どもたちは運動会を思う存分に楽しみ、その後はサツマイモ掘りや園の周辺を散歩しながら“秋”を肌で感じています。



始まりは子どもたちの声 「運動会 やりたーい」



運動会は園の行事として予定していたのですが、子どもたちにはそのことは知らせず、子どもたちからの「運動会をしたい」という声を受けて取組を始めました。月組の子どもたちには「運動会をするならどんなことをしたい?」という保育者の問いかけに、子どもたちが話し合いを行いました。組体操の内容も月組の中でホームごといくつかの演技を考えました。その話し合ったことを園庭で実際に行っていました。その様子を見た星組や花組の子どもたちが「月組の人、何をしているの?」「自分たちも運動会をやりたい」と言って、各クラスそれぞれの運動会が始まりました。



「2学期には運動会をします。内容は〇〇です。」と言って取り組ませる方がずっと楽かもしれません。でも、藤波の「めざす子ども像」として私 →

たちが特に大切にしていることは「いろいろなことに興味や関心を持ち、自分から関わり、思いを表現しようとする」ことです。



10年後、20年後の社会がどのようなになっているかを予想することは難しいですが、どんなに社会が変わろうとも「主体性」や「コミュニケーション能力」は求められると思います。自分たちで考え、実行する素地を作ってくれることを願い、月組だけでなく、星組や花組の子どもたちにも「運動会をやりたい」「〇〇をやりたい」と思ってもらおうよう、働きかけてきました。そんな中で、子どもたちは自分たちがやりたいことをしっかりと考えて実現していました。

翌週の連絡帳には、お子さんの成長した姿を見て感動されたお言葉をたくさんいただきました。

たくさん頑張っている姿を見ることができ、本当に嬉しかったです。精一杯体操したり、走ったり、挑戦したりする姿、大きくなったなあ実感しました。

(月組保護者)

今年は「藤の里」からも参観に来ていただきました。園児の様子をご覧になり「かわいいー」「頑張れー」と声援を送っていただいていたいました。



土の中から 大きなサツマイモ

★泰山寺でのイモホリ

ホームごとに泰山寺にバスで出かけ、栽培していただいたサツマイモ掘りを行いました。広々とした泰山



寺の畑に子どもたちは開放感を感じた後、割り当てられた畝で早速、手で土を掘り、中から出てくる大きなサツマイモに「見てー、こんな大きいサツマイモを掘れた」と、たくさんの子どもが満面に笑みを浮かべていました。その後も掘り続け、「サツマイモが見えてきた」「大きすぎて掘れない」「まだまだいっぱいあるー」と、大はしゃぎしていました。

★さくらんぼ広場の親子と地域の方たち



地域支援事業の一つとして、地域の方（山本義雄さん、山本房栄さん、渡辺素江さん、中村悦子さん、淵田数枝さん、淵田香さん）とさくらんぼ広場に来園の親子のみなさんで、春に植えておいたサツマイモを掘りました。地域の方に教えてもらいながら子どもたちも掘り起こし、土の中から出てくるサツマイモに驚いていました。苗植えの後、お世話いただいた地域のみなさん、ありがとうございました。

★「サツマイモ、掘りに来ていいよ」

三重生（常磐木）の堀部長夫さんからサツマイモ畑の提供があり、月組の子どもたちがお世話になりました。当日は徳常寺（青柳）のご住職、鷺本浩さんもお手伝いに来ていただきました。ありがとうございました。



秋祭りの企画、準備 ありがとうございました

子どもたちを楽しませようと企画いただきましたが、悪天候のため中止となってしまいました。役員さんたちは平日、



休日を問わず、何度も会議を開いていただきました。中止を決めてからの作業はつらかったらと思います。そんな様子を想像し、連絡帳に感謝の気持ちを書いていた方もありました。



景品ありがとうございました。個別の仕分け、たいへんだったと思います。お祭りがなくて残念でしたけど企画された方々には感謝です。おつかれさまでした。（保護者）

「やさしさは想像力から」という言葉を聞くことがあります。そんな様子を目の当たりにする機会がありました。私ごとですが、10日間程入院した時のことです。看護師さんたちの対応には「頭が下がる思い」と表現していいのか、感動する場面がいくつもありました。多分、どの病棟も看護師さんの人数は少ないと思いますが、多くの患者さんに、それぞれの患者さんの気持ちや背景を想像しながら対応されている様子でした。こんなこともありました。朝食時、「まず、温かいお茶をどうぞ。」と持ってきていただいたのです。おいしくいただいた後、何をされているのかと思い、廊下に出てみると、その看護師さんが担当されているたくさんの病室にまず温かいお茶を配り、その後で朝食を配っておられました。一緒に配れば最後の方の人のお茶は冷めてしまうところ、みんなに温かいお茶を提供されていたのです。体の痛みを忘れ、心温まる「やさしさ」「想像力」をたくさんの場面で感じました。